

緑の芽を吹き世は何となく春らしい。胡砂の中に青柳を見るととき本當に眼も覺める様に美しく思ふ。

青龍橋から南口邊の景色は實際繪を見る様で麥と柳の緑が何とも云へぬ美しさである。暫らくの間に本當に春らしくなつた窓外の景色に見入る中、四時二十分汽車は早くも北平西直門に着いた。

荷物の検査は殆んど形式的にあるばかりで、實際心配が大きかつた丈、拍子抜けの體である。五時、一二三館に歸り、蒙古の垢を落して六時夕食、先づ無事だつたやれ／＼と思ふ。新

聞を食り讀み、原田、島村、水野、江上、駒井玉井の諸氏と共に旅行談に花を咲かせた後十一時半就寢、病氣もせず、馬賊にも襲はれず、色々の人々の親切に預かつたことを深く感謝しつゝ、静かにねむる。(昭和六年七月二十六日稿)

(附記)

此の旅行中、同行の東亞考古學會幹事島村孝三郎、東方文化學院京都研究所員水野清一、東京帝國大學考古學教室駒井和愛、東亞考古學會在支日本留學生江上波夫、京城帝國大學助教玉井是博の諸氏から一方ならぬ御厄介になつた。實際は此の旅行記は水野、駒井、江上、小牧の四人連名で發表するが適當であると思ふ位であるが、一先づ小牧の名を以て發表する。此の機會に前記諸氏に厚く感謝の意を表する。

伊太利ところぐ (二〇)

瀧川規一

【聖フランシス繪になつた挿話の一代記】

(続き)

ベヴァニヤ(Bevagna)にあつた出來事であるが、聖者は群鳥の集まる處に來ると群鳥は聖

者の方に向ひ頭を俯したと云はれる。

チエラノ(Celano)伯は正直な信仰篤き騎士であり慈善心に富んだ人である。或日聖者を招いて食卓についた。然るに聖者は主人の死期の近づけることを豫感し秘かにその由を主人に告げた。騎士は貧なる基督信者になした歡待の報酬として興へられた心の平和を聖者に教へられ、その言に従つて罪の懺悔をなし、一家を整頓し饗應の席に就いたが其處で倒れて事切れた。

聖者が柩の上に臥して居る時にアシシの町人は聖者が身に受けたスチグマタを見これを接吻することを許されたが、こゝに一人の怪疑者があつて容易に信じなかつた。その男はゼロームと云ふ男であつたが、目で見、手で觸れなければ信じ得なかつた。

スチグマタに疑を抱いたのはゼローム一人ではなかつた。法王グレゴリ九世も亦疑つた。従つて法王はフランシスを聖者の列に加ふ可きか否かに躊躇した。然し中世の人々には疑心を決

定する夢と云ふ物があつた。聖者が夢に現はれ法王の不信を責め衣を開いて傷口から滴る血を瓶に受けて法王に與へた。法王は斯くて決心がつきフランシスを聖者の列に加へることにした夢が現實を支配したのである。

信仰家には今日でも神秘なる疾病治療法や起死回生の術が纏絆する。基督は勿論幾度も斯の種の奇蹟を行つて居る。幾多の聖者は洋の東西を問はずその傳記には幾多の怪妖の術が奏効したことを報じて居る。聖フランシスにも病人を癒し死者を蘇生さす位の奇蹟は當然あつた。二階から墜落した小供を蘇生せしめて居る繪は既に見た。今既に見た今後大人が起死回生術を施されてゐる繪を見るのである。カタロニア(Catalonia)の人が強盜の爲めに重傷を受け醫師も亦回復の見込なしと見放したので遂に聖者を招いた。聖者は二人の天使に護られて傷口に手を觸れこれを治癒した。

ヴェネヴェント(Venevento)の一婦人は聖者

に歸依してゐたが臨終に際して懺悔赦罪をなし得ずして事切れた。然るに聖者の御陰で一時靈魂が身體に歸り形の通りの懺悔と赦罪とをすまして大往生を遂げた。

聖者の井戸や泉と稱するものも聖者の偉蹟に纏絆するものである。吾國でも弘法の井戸と云ふのがある。歐洲の各地にそれがある。或日聖フランシスが教友等と共に暑い日に山中に旅行をした。一行は暑熱の爲めに渴と疲勞とを覺えた。聖者はこれを見て天に祈つた。すると岩間から清泉こん滾々として湧出した。

聖者の靈體がサン・ゴミアンの寺に運ばれ、聖體を昇ぐ者等が寺院の入口に中どまりする。寺の門口に出迎へたのは聖クララとその部下の尼僧達である。繪で見ると聖フランシスは臺の上に仰臥してゐる。聖クララは聖體に身を屈め泣き悲んで居る。傍の一人の尼は跪いて聖者の手に接吻してゐる。この時の聖クララは花嫁姿をして家を飛び出した時の丸ぼちやではなく

て、面長の美しい年増の婦人である。

【アシシの爾餘の寺院】以上の一代記は繪になつた一代記である。今日の科學的見解に抵觸しても繪の印象を傷けるものではない。然し自然界に對する聖者の奇蹟の遺物が今日まで存在してゐると云ふに到つては吾云ふ處を知らずと云つて可なりである。アシシにサンタ・マリア・デリ・アンジェリ (Santa maria degli angeli) と云ふ大きな寺がある。聖フランシスが初めて説教をした處であつて、其場所に今日見るが如き大建築をなしたのである。高圓天井の下に小さい祠堂が建てられてある。この小祠堂はポルチュンコラ (Porziuncola) と稱せられ、聖フランシスの最初の弟子達が此處で聖者の許に集つたのである。フランシスはこの小祠の周圍に小屋を建て、フラットレス・ミノレス (Fratres minores) と概稱せられた教友等の住家とした。聖者が己の教團が將來に偉大なる教團となると云ふ幻想を見たのはこの小祠であり、聖クララが

親の家を飛び出して聖フランシスに迎へられたのもこの小祠である。十四世紀では八月五日に參詣し懺悔と悔行となす者には特別に罪の赦を得たので巡禮の聖地として有名であつた。この寺内に小さい庭園がある。この庭園こそは今こゝに云はんとする自然界の奇蹟遺物の存在する處である。この庭には棘無き薔薇が生えて居る。昔は棘があつたのだが、聖フランシスが禁慾難業の爲めに肉體を苦める方法としてこの薔薇の上に裸體を横へた。それ以來薔薇は花咲き新しき芽を出したが棘を失つて了つたと云ふ。吾邦では静岡縣は薔薇の栽培で有名であり棘無き薔薇があると从聞した。果して然りとすれば誰が裸體でその上を横臥したかそれともアシシから輸入したか。藥師寺附近の八幡宮の小川には奈良朝以前から存在してゐたと傳へられる片葉の芦が生えてゐた。傳説によれば神功皇后が三韓征伐の際に芦の葉をとつて矢に箝められたので爾來今日に到るまで片葉であると云ふ。某地で

は逆さまに生えてゐる竹がある。或る高僧が杖を土地に突きさしたがその杖から芽が生えて逆竹となつたとさへ云はれてゐる。矢張弘法井戸の類である。

サンタ・キアラの寺はアシシに訪でる以上決して見逃す可からざる寺である。既述の寺院の如く輪奐の美を盡した建築物ではないが、既に屢述べた如く美しき女性の聖者をしてフランシスに歸依するに至らしめた處である。母親の聖エリザベタも居つたに拘らず娘の聖クララのみが世に喧傳されてゐる。彼女がフランシスに歸依して花嫁姿で生家を出奔するに至る所謂神聖なるロマンスが世人の心に訴へたのであらう。彼女の終焉の地としてまたこの聖體の安息地として遠來の旅客もこの寺に是非參詣を怠つてはならぬ。彼女をはじめ多くの聽衆に獻心と悔心とを喚起せしめた魅力の所有者聖フランシスの形相を想像せしめる肖像は既述のジウンタ・ピサノ (Giunta Pisano) の筆になるものよりも寧

ろこの寺にあるヅプレ(G. Dupré)の筆になるものでないかと思はれる。

アシシの回顧に忘れ得ざるものは下の寺の裏の回廊と、そのモナステリから眺めたキアデオ(Chigigio)河畔のウムブリア平野の眺望である。橄欖の野は伊國では珍らしくないが、静寂なる僧院から下瞰する静寂なる河流と平野とは夏の暑熱の旅苦を慰めるに充分であつた。僧院内にはムソリニの施政方針に従つて學校を經營し、往訪の時には授業の最中であつた。窓外から見受ける靜肅なる教室の有様はまた僧院に相應はしう。

【ボロニア式料理其他】ボロニアに行けば所謂 *alla bolonese* と形容語の添加されたボロニア式料理を味つて來べしとは先輩の云ふ處である。試みにボロニア式と云はれる料理を數へると成程澤山ある。伊太利には人の知るが如くマカロニ(*macaroni*)、スパゲツチ(*spaghetti*)の饅頭類がありヴァミチエリ(*vermicelli*)の索麵類

がある。饅頭索麵類で有名な國丈けあつてこれを調製した麵類料理として *alla bolonese* を附加するものにはラヴィオリ(*ravioli*)、トルテリニ(*torrellini*)、カペレットチ(*cappelletti*)がある。コストレット・アラ・ボロニーズ(*costollette alla bolonese*)と云ふは仔牛の肉とチーズとパン屑と松露とで作られた一種のカツレットであり、モルタダレ(*mortadelle*)と云ふのは英國でポロニ(*polony*)の名で知られてゐる太い腸詰である。サムポーネ(*zampone*)は豚の足肉を調理したものである。ピンツァ・ヂ・モンタニア(*pinza di montagna*)と云ふは菓子もボロニアの名物である。

吾々一行が歐洲に最初の上陸地であつたマルセルには英小説家サツカリが稱揚したと云ふので世に紹介されてゐる魚料理がある。サツカリの云ふが如く西陽を斜に浴び、窓外に入江を眺めて食卓に就くことは在住の知人の好意によつて經驗することが出來た。「基督の涙」と稱す

葡萄酒もボムベイ附近のホテルで味ふことが出来た。手許の薄い外國旅行には食道樂をして歩き廻る餘裕はない。

フロレンスにはフイオレンチナ (Florentina) と云ふ牛の肋骨間の肉を料理した美味がある。またアリスト (arista) と云ふ豚の腰骨の肉の調理がある。大豆を主として種々味をつけた料理もフロレンスの料理として有名である。

ヴェニスに行けば米のスープがある。日本ならば斯んなものがと一笑に附し去るであらうが名物となれば仕方がない。米を利用したシチュウに幾種もある。例へば米と小豆とを取合はせたものにはリシ・エ・ビシ risi e bisì と云ふのがあり、米と肉とを詰めた腸詰にはリシ・エ・ルガネガ (risi e luganega) と云ふのがあり、米とイガヒ (貝類) とを取合はせたリシ・エ・ペオチ (risi e peoci) と云ふのがある。ヴェニスの海には魚類が多い。貝類、蟹蝦類が屢食卓に上る。蟹にはグランセオレ (granseole) とモレゲ (molteghe) の兩種があり、蝦にはスカンピ (scampi)

と云はれる大きな車蝦がある。伊勢蝦の美事なものも食卓を飾る。大抵はフライにしてあるので日本料理の如く外觀を賞し眼で喰べるのではなくて舌で味ひ風味を賞でて犬猫の如く鼻をも利かす畜類がなす賞味法である。鯉の料理にはバカラ・アラ・ウエネチアナ (baccalà alla Venezziana) と云ふのがある。ポロニアに入る前に食指先づ動くと云べき處である。

【ポロニア市街見物】 目貫きの場所と云へばピアツァ・デル・ネツノ (Piazza del Nettuno) である。海神ネプチューンの像を中心にした噴水がある。廣き場所を求めるならばピアツァ・ヴィットリオ (Piazza Vittorio) である。土地の人が感心する程でもなす。ネツノからピアツァ・ポルタ・ラヴエニヤナ (Piazza Porta Ravennana) に行くところの傾斜塔がある。中世に一〇八の塔があつたうちの遺物である。一一〇九年に建られたものであつて高さ方は三二〇呎の高さであり、四呎ばかり傾斜してゐる。これをトル・アシネリ (Torre Asinelli) と云ふ。低い方

の塔はトレ・ガリセンチ(Torre Garisendi)と云ひ一六三呎の高さであるが傾斜は前者より甚しく一〇呎ばかりである。ピサにある有名なる傾斜塔は一七八呎の高さで一三呎ばかりの傾斜である。ピサの傾斜塔を利用したのはガリレオである。吾は個人的に人生の傾斜を測定すべく不惑の齡を超えながら世界にさまよふ者である。詩聖ダンテは低い方の塔を傾斜せる側から雲の通過を見た時の感を地獄篇で述べてゐる。

目貫の場所よりも古い邸宅を見て歩く方が面白い。例へばヴィア・マチニ(Via Mazzini)にあるゴシック式の窓のあるカサ・デオアネツテ(Casa Giannetti)と云ふ家、カサ・ロニニ(Casa Rossini)と云はるる家、その他往來の狭く横町にある家が他の都市では見られぬ趣があつてそれだけを見物して歩いても興味がある。

ポロニアの大學は伊太利最古の大學であり十一世紀の後年より十二世紀の初までの間に創設され法理學の講義を開始した。創設者イルネリアス(Irnerius)の弟子は歐洲全體から集つた。

牛津の法律學校も亦その弟子ヴァケリアス(Vacarius)によつて開始された。宗教法も亦教へられて、法律學研究の中心地となつた。十四世紀に於ては人體解剖をはじめとなしたと云ふので世界から非難の的となつた。十八世紀の後半では電氣の發明で有名となつた。幾多の有名なる教授中女流科學者が數多く輩出したことを誇としてゐるのも面白い。附屬圖書館は多くの寫本の存在を誇としてゐるのも面白い。附屬圖書館は多くの寫本の存在を誇としてゐるのであるが圖書館員で多數の國語を知つてゐる廉でその名を後世に垂れてゐる者がある。十八世紀の後半より十九世紀の初半に生存してゐたメツォファンチ(mezzofanti)と云ふ男は五十箇國の語を話したと云はれてゐる。英國のウエールにも殆ど時代を同じくして三十五ヶ國の語を話した男が居た。この男はウエールスのアバダロン(Aberdaron)村のリチャード・ジョーンズ(Richard Jones)と云ひ無頼漢でアバダロンのデックと渾名されてゐたが、不思議なことに「ウエール

ス語—希臘語—ヘブライ語」三語對譯の辭書を作つてゐる。

【ボロニアの繪畫史】 ボロニアにボロニア式料理がある如く繪畫にボロニア派がある。この派の初期は十四世紀であつて、描かれた形が硬く色彩が貧弱である。ビザンチン式の影響を脱することが出来なかつた。この硬い形に軟か味を増し熟技を示し得てビザンチン式から初めて分離することを成し遂げたのはヴィターレ・デリ・エクイ (Vitale degli Equi) であり其後繼者たるシモネ・ゼイ・クロチナイッシ (Simone dei Crocifissi) 及びリッポ・ヂ・ダルマシオ (Lippo di Dalmasio) であつた。これ等の人々が相當の圓熟なる技量を示した後。ボロニア派の畫界は一時衰微した。十五世紀の後半に於てマルコ・ツォッポ (Marco Zoppo) がパドヴァ (Padua) でスカルチオネ (Squarcione) に學びその畫風を輸入し、一方フェララ (Ferrara) 派の畫風がガラツン・リヴァ (Galasso Riva) によつて輸入された。間もなくメンチウオリオ (Bentivoglio) 家

の隆盛期になり、デル・コッサ (dal Cossa) エルコレ・ロベルチ (Ercole Roberti) 及びロレンツォ・コスタ (Lorenzo Costa) がボロニアに来てベンチゾオリオ朝の爲めに麗筆を奮つた。そのうちコスタは一四九〇年にボロニアのフランチェスコ・ライボリニ (Francesco Raibolini) と交つた。フランチェスコは普通にフランチャア (Francia) の略稱にて畫家としてよりも寧ろ金細工匠として知られ當時金匠として成功した人であつた。彼は一五〇八年にはラファエルの影響を受け今日ではボロニア畫派の眞の祖として知られてゐる。コスタとフランチャアは互に深く影響を受けたが、フランチャアは漸次コスタを凌ぎ、またペルヂノ (Perugino) の影響を受けた。何れにしてもコスタとフランチャアとは畫派として兩派對立の勢をとり兩者共その流を汲む名畫家を輩出せしめてゐる。コスタ派に屬する名畫家にはチアン・マリア・キオダロ (Gian Maria Chiodarolo) ギド (Guido) 及びアマニコ・アスペルチニ (Amico Aspertini) の如きボロニア生れの畫家が

居り、フランチャ派に屬する人々にはその子デ
アロモ (Giacomo) 及びチモテオ・ヴィチ・ダ・ウ
ルビノ (Timoteo Vitti da Urbino) の如き畫家
が居る。フランチャの隆盛なる頃にはその門弟
二百人以上を數へたと云はれて居る。十六世紀
の終に近づくに従つて全歐洲の畫家は伊太利に
學んだ。羅馬及びフロレンスに行つて過去の畫
を研究した。この時に當つて古代研究派の形式
尊重に反對し反動派としてボロニアの畫家等が
奮起した。彼等はこれによつて伊太利の畫に新
生面を開かんと欲した。彼等が折衷せんとする
處のものは、何派を問はず眞の獨創性を有する
大家の作品に現はれたる最良の性質を融合する
にあつた。例へばコレヂオ (Corregio) の軟か味
ヴェニス派の豊富なる色彩、フロレンス派の筆
勢ラファエルの構圖の長所を捉へて融合混和せ
んとするにあつた。カラッチ (Carracci) 一派が
この折衷派の創始者である。ロドヴィコ (Lodo-
vico Carracci) 及び従兄弟である。アゴスチノ
(Agostino) アニン (Annibale) はこの反動派

の始祖と仰がれその流を汲む幾多の有名なる畫
家が輩出した。例へばフランチェスコ・アルバ
ニ (Francesco Albani) キー・ニ (Guido Reni)
ドメニコ・ザムビエリ (Domenico Zampieri)
及びデオヴァンニ・フランチェスコ・バルビエリ
(Giovanni Francesco Barbieri) の如き畫家は
この餘影を受けたる錚々たる人達である。ドメ
ニコは渾名をドメニキノ (Domenichino) と呼
ばれ、デオヴァンニは渾名をゲルチノ (Guercio-
no) と稱せられてゐた。チアリニ (Tiarini) も
亦カラッチ派の影響を受けた。更にアルバニ及
びギド・レニの影響を受けた者には、チニヤニ
(Cignani) 及びエリザベッタ・シラニ (Elisabetta
Sirani) その他多くの畫家が居る。間もなくナ
ポリには自然派が擡頭した。
折衷派の繪は技術の集合に過ぎずして生命な
しとの見地に立つて自然派は力強く活體から寫
すことを主張した。この派の頭目はカラバヂョ
(Caravaggio) であり以後伊太利全體の畫風は人
々の氣分に從つて或は折衷派に走り或は自然派

に行き十六世紀の終末には南北兩派が合一し爾來歐洲各國が各自の調子を取つて進むに至つた十七世紀になると歐洲畫家にして伊太利に遊ぶもの益多く、斯くてポロニア畫家及びミケルア・ンダロ・カラバッチオ(Michelangelo Amerighi da Caravaggio)が近代繪畫の祖となり得たのである。

新著紹介

○五萬分一京都近郊圖

菊全判 陸地測量部發行
七月 定價四拾五錢

近來測量部は二萬五千分一、五萬分一、二十萬分一の各圖を基として都市地方の色刷地圖を發行して、大に世間の使用に便にしてゐる。この圖もその一つ三月に發行した近郊圖を多色刷にしたものである。北東には琵琶湖の南部を收め、中央の北縁には鞍馬を入れ、南には五椋池を出し、西は龜岡盆地を含むで東西約十里、南北約七里の地に亙つてゐる。五萬分一地形圖の上へ〇—一〇〇米、一〇〇—二〇〇、二〇〇—四〇〇、四〇〇—六〇〇、及び八〇〇米以上の五階の段彩とし、其の色は萬國圖のものに近くて二〇〇米以上はかなり赤い。地圖の内容としては名所舊蹟を探り或は學術的調査を爲さんとする人々の便に供する爲め部分修正を施して略現況を示し

てゐる。之と共に名所舊蹟には羅馬字をも註記してあつて一種の國際地圖を以て任じてゐる。たゞ五萬分一地形圖上の誤記などは正されてゐず、羅馬字が日本式なると同時に隨分變挺のものさへある。今後同部に於けるかゝる地圖作製の參考にもなり且つ購入者の絶對の信頼を豫防する爲め、上記の誤りの點を指摘しておくこと次の如くである。羅馬字で第一に目につくのは宇治町は Uai で宇治川は Uzisawa とあり、五椋ノ池は外國人の Fujiyama 式で Ogurake であり、保津川(ホツツガハ)が Hotugawa と誤讀されてをり、學術調査の基となすと唱へておきながら帝國大學も博物館も動物園も植物園も横文字の註記がない。五萬分一圖葉の誤が其のまゝである例は桂川の西岸に近い松尾谷の西芳寺北西、山嘴上の標高で百米以上の地點に一六・二とあることで、之は二萬五千分一地形圖を見て一六一米七即ち切上げて一六二米なるを知り、其の誤を正す手數がある。段彩式地圖を作ることには我等地理教員が從來經驗してゐた様に山嘴の上にポツポツと獨立して高距曲線一本卷きの小隆起を拾ふ繁雜な仕事があるが、此の圖はさすがに測量部のものだけあつて拾ひそこねたものは石山の伽藍山を始めとし二十數箇所過ぎない、然し唯誰もが誤る如くこの地形圖にも圖の縁邊で四百米以上の色を入れるべき所が少しく大きく、田上山の^{タナカ}一支の矢筈ヶ嶽の北方にぬけてゐる。段彩式地圖を作る場合に地圖の縁邊部は特に注意して塗らねばならぬことは銘記すべきことである。因